

歴史資料室では、10月15日（土曜日）より新しい展示を始めました！

テーマは「青森と函館一まち・ひと・ものの交流史」で、ツインシティである青函両市の藩政時代から今日までの様々なつながりについて展示しています。

そのうち、8階のパネル展示では「青森は函館・松前への渡航地」として、藩政時代から明治時代にかけて青森から北海道に渡った人々を紹介しています。



展示のようす

その中の1人、明治天皇も明治9年（1876）と同14年の東北・北海道巡幸の折、青森から北海道に渡りました。これらの巡幸では、土地の名望家の家や寺などが天皇の宿泊所である
あんざいしよ
行在所として選ばれ、青森町では2度とも蓮心寺が行在所となりました。



蓮心寺（明治期、歴史資料室蔵）

天皇は青森を訪れた後、最初の巡幸では7月16日に函館に渡り、東本願寺を行在所にしています。2度目の巡幸では8月29日に青森を出発し、初めて小樽・札幌などを訪れました。船で小樽に着いた天皇は、小樽港近くの手宮から、前年に開通した官営幌内鉄道に乗り札幌まで移動しました。そして、札幌での行在所となったのは、札幌農学校演武場（現札幌市時計台）近くの、大通りに面して建てられた立派な西洋式ホテルでした。



豊平館

このホテル「^{ほうへいかん}豊平館」は北海道開拓使が建築したもので、明治政府の造った唯一のホテルでした。建物は明治13年11月に竣工し、庭園の整備などを経て翌14年8月30日に明治天皇を初めての宿泊客として開館しました。

アメリカ様式のこの建物は、正面中央の棟飾りに開拓使の建物を示す赤い五稜星が描かれ、外壁は白とウルトラマリンブルーに美しく塗られていました。現在の建物は昭和57年（1982年）からの改修工事により建築当時の色を復元したもので、^{しょうしゃ}瀟洒な外観が明治初期の札幌で一際目立ったことは想像に難くありません。

しかし、一見完全な洋館に見えますが設計者は日本人で、部屋の天井部には部屋ごとに異なるテーマの植物が^{こてえ}鏝絵という^{しっくい}漆喰のレリーフで描かれており、またマントルピースも漆喰で大理石のように見せるという日本の高い伝統技術も使われていて、明治初期の建築物としてとても興味深いものです。ちなみに大広間の豪華なシャンデリアも日本で作られたものだそうです。

豊平館は昭和33年に札幌中島公園内に移築され市民に親しまれてきましたが、今年6月に2度目の保存修理が終わり、再び一般公開されています。現在は国の重要文化財に指定されており、当時の建物がこうして残っているのは貴重ですね。

その後、札幌を出発した天皇は陸路を経て9月7日に再び函館から青森に戻り、蓮心寺に宿泊の後、石江、浪岡、弘前を經由して秋田に向かったのです。